



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

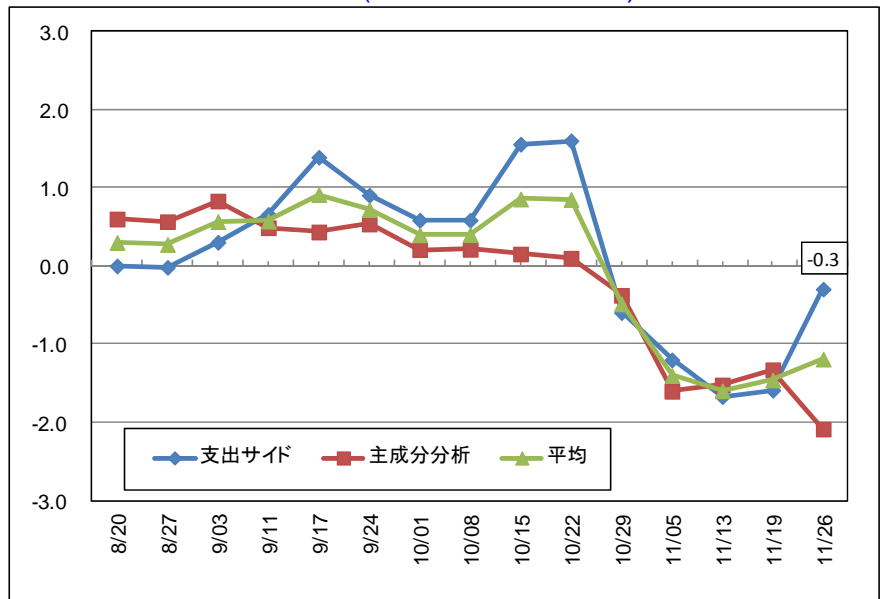
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年11月26日)

ポイント

- ▶先週は 10 月の貿易統計(通関ベース)、9 月の全産業活動指数が更新された。
- ▶今週の CQM は、10-12 月期の実質 GDP 成長率を、内需は横ばい、純輸出は小幅縮小するため前期年率-0.3%と予測。先週から上方修正。
- ▶注目されていた 10 月の貿易赤字は前月比-34.9%と 4 ヶ月ぶりに縮小。前月の駆け込み輸入の影響が剥落したため。この結果、10-12 月期実質 GDP に対する純輸出寄与度のマイナス幅は先週から縮小した。
- ▶10 月の対中輸出全体の減少幅は前月から縮小したが、品目別では自動車の減少幅が大幅拡大した。今のところ China Risk は自動車輸出を中心に限定的である。
- ▶純輸出の寄与度が小幅のマイナスにとどまるならば、10-12 月期経済がマイナス成長局面から反転するためのポイントは、10 月の民間消費及び企業設備関連のデータの結果如何となろう。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q4 (%、前期比年率換算)



<今のところ China Risk は自動車輸出を中心に限定的、10-12 月期景気のプラス反転は 10 月の民間消費と企業設備関連データの結果如何による>

先週は、10 月の貿易統計(通関ベース)、9 月の全産業活動指数が更新された。今週の CQM(支出サイド)は、10-12 月期の実質 GDP 成長率(年率換算)を、国内需要が横ばい、純輸出は小幅縮小するため前期比年率-0.3%と予測する。

注目されていた 10 月の貿易収支(季節調整値)の赤字幅は前月比-34.9%と 4 ヶ月ぶりに縮小した。9 月に環境税導入前の原油や石炭の駆け込み輸入があったが、10 月はその影響が剥落したためである。この結果、10-12 月期実質 GDP に対する純輸出寄与度のマイナス幅は先週から縮小して小幅にとどまった。

10 月の対中国輸出は 5 ヶ月連続の前年比マイナスとなり-11.6%減少した。輸出全体の減少幅は前月(-14.1%)から縮小したが、品目別では自動車の減少幅が-82.0%となり前月(-14.6%)から大幅拡大した。原料別製品や一般機械も不調であったが、10 月の中国の統計では、生産、投資、消費などの主要指標が軒並み改善し、景気減速の最悪期は脱したようであり、今後、日本の資本財や素材品輸出の減少幅も縮小すると考えられる。China Risk の高まりによる対中輸出の悪化は、今のところ自動車を中心に限定されているようである。純輸出の寄与度が小幅のマイナスにとどまるならば、10-12 月期経済がマイナス成長局面から反転するためのポイントは、10 月の民間消費及び企業設備関連のデータの結果如何となろう。

なお今週の予測結果が支出サイドモデルと主成分分析モデルで反対の方向になったのは、支出サイドモデルでは輸出、輸入の両面から GDP への影響を見ているが、主成分分析で主成分を計算する変数には輸入は含まれていないため輸出のみの影響が強く出ているためである。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550